

佐世保市立学校給食検討委員会

第2回 議 事 要 録

- 日 時 平成19年9月27日(木) 午後7時から8時35分
- 場 所 佐世保市役所本庁舎5階 庁議室
- 出席委員 武藤委員 水江委員 東委員 七熊委員 三島委員 近藤委員 村田委員
真崎委員 古賀委員 迎委員 光富委員 馬場委員 森宗委員 金子委員
永元委員 八頭司委員 廣山委員 17名
- 欠席委員 梅崎委員
- 事務局 鶴崎教育長 近藤教育委員長 古賀教育委員 徳勝教育委員 浅井教育委員
中島教育次長 本山教育次長 池田総務課長
武富 吉田 坂本 諸隈 高尾 高島
- 傍聴者 8人

- 会 次 第
 - 1 開 会
 - 2 教育長あいさつ
 - 3 事務局からの確認事項
第1回佐世保市立学校給食検討委員会議事録の確認について
 - 4 議 事
 - (1) 事務局説明
 - ① 検討委員会における今後の論点について
～各委員からのご意見等をふまえて～
 - ② 資料の説明
 - (2) 意見交換
 - ① 食にかかる学校と家庭の役割・学校給食の有効性
 - 5 事務局からの連絡事項
次回の会議開催について ～日程、資料請求等～
 - 6 閉 会

◆ 議 事

【事務局】 資料の確認

1. 食に係る学校と家庭の役割、2. 佐世保市立学校給食検討委員会タイムスケジュール、3. 学校給食検討委員会のテーマ、意見など、4. パンフレット「Let's食育What学校給食」

【事務局】 「タイムスケジュール案」により説明

- 第一次諮問中、第2回目からを協議とし、本日は、学校給食の現状と課題、学校給食のメリット、デメリット。3回目以降をグループ分けして運営上の諸問題についてグループ分けして

ご協議願いたい。

1つ目のグループとて、給食実施方式、給食費の未納問題、学校の日課、コスト。

2つ目のグループとして、給食献立、アレルギー対策、地産地消、残さ とする。

【会 長】 資料2により、グループ分けして議論をしていきたいという提案だが、このタイムスケジュールで進行してよいか。

(異議なし)

【会 長】 今回の検討会において論議すべき点は多々あるが、もう一度理念的なところを押さえておく必要があると考えるので、事務局の案を基本的に進めていきたいと思っている。

(事務局案のタイムスケジュールにより進めることを確認)

【事務局】 資料1の説明。

『食に係る学校と家庭の役割』、『学校給食の有効性』

食育基本法、本市の食育推進計画リーディングプランの概要説明

参考資料としてアンケート調査抜粋 ○生活リズムについて 朝食摂取率、夕食を誰と食べるか ○子どもの好き嫌い ○給食を実施した方がよい理由 ○家庭における食育推進の状況 ○弁当をつくるときに最も気を使うこと、パンフレット(「Let's食育What学校給食」)。

【会 長】 意見交換に移ります。

【委 員】 学校給食の有効性ということだが、私は子どもたちの精神的なことに有効だと思っている。家庭の事情などで弁当を持ってこられないということは、精神的にすごくダメージを与える。給食があるということで、かなりの部分子供たちが楽になるという気がする。だから、栄養も大事だが、精神的な支えとしての給食というものも大事だと思っている。

【委 員】 家庭における食育の推進(弁当を作るときに気をつかうこと)で、季節による衛生面でというのが2番目で17.8%、今夏が暑くて弁当を持っていても不安なので、給食であればお母さんたちも安心ではないか。こういう面はかなり、衛生面でよいと思われる。

【会 長】 学校給食に子供の好き嫌い、偏食の矯正というようなことがあるが、給食における偏食の矯正の状況について、保育所とか小学校などの先生にお話を願えればと思っている。

【委 員】 保育園で給食を出しているが、家では食べなくても給食では食べるということもかなり多く見られる。やはりその楽しい雰囲気やみんなと一緒に食べるということが子供の食欲を増して、家では食べきれないものでも食べられるようになるという効果はかなり大きいと思う。それは小学校でも中学校でもあるのではないかと思う。

【委 員】 学校給食を提供している立場からだが、みんなで食べるという雰囲気の中で嫌いだに周りに励まされながら、みんながおいしそうに食べているとちょっと食べてみようかなという気分になる子供が結構多いように思われる。

数年前、学校で食育のアンケートをとり、好き嫌いがある子供について、嫌いなものを実際食べているのかどうか聞いてみた。その結果、「学校ではちょっと頑張って食べる」という子供がかなり多かったように思われる。

【委 員】 私は中学校に勤務しており、本校は給食を実施している。中学校2年生を対象に、栄養士がとったアンケートによると、嫌いだというのは中学生になるともう固定してしまっているが、家では残すが給食では食べるという生徒が多かったようだ。

また、今まで家で出されたことがないので嫌いだと思っていた食べ物も給食で食べてみると実はおいしかった、特に魚などだが、そういう子供が好んで魚を食べるようになったと担任から聞いている。

【委員】 食育はものすごく大切なことだと思う。確かに幼稚園の子供たちも食べ切れなかったものも、栽培してそれをみんなで収穫して食べたらとてもおいしいというのはすごくある。

幼稚園・小学校では、周りが食べるからじゃあ食べようというようなところがあるのだろうが、果たして中学校になったときにその辺がイコールでつながっていくのだろうか。

幼稚園では、信頼関係で子供が「先生がそう言うんだったら本当だね」ということで受けとめるわけだが、中学校でクラスの先生が食事の中でそういう話をしながら食べるということが出来る現場なのか。

栄養教諭が佐世保では今一人だけと聞いたが、中学校では、だれがどういうふうに食育という観点で子供たちに具体的にそんな話をするという想定になっているのか、だれがどういうふうに子供たちとかかわっていくのかお尋ねしたい。

【事務局】 給食の食育という観点からすると、ただいま本市には72校ある。そのうち分校を除くと、69校であるが、栄養教諭、学校栄養職員の配置は19名。50校は今いないということである。食育基本法の関係もあるが、学校栄養職員を栄養教諭にするんだというのが今の動きである。という状況なので、(パンフレットの)写真のような給食における活動を全校でやるということになると、一人の栄養職員並びに栄養教諭がネットワークのように自分の配置されている以外の学校に行っていかなければならない。教壇に立って話をするのが栄養教諭で、栄養職員はそれができないが、学校では栄養職員であっても教壇に立って実際にここにあるような活動をしている。給食の段階でやるということについてはそういうことである。

ただ、小学校の高学年、中学校になると、食品の安全性の問題や食品が持つ栄養素の問題は家庭科とか理科などの教科の中でやっている。それと食とどう結びつくんだというのは、子供の発達段階に応じて感じとっていくというような世界だったのを、食育というくくりの中で何とかうまくあいにもっていけないのかというのが今我々が考えていかなければならない学校全体の食育としてのあり方だというふうに思っている。

先ほど、委員が言われたように、例えば、学校菜園をつくってそこで栽培して子供たちに食べさせるというようなことも補完的にはやっている。基本的な食育というところになると、学校の中でカリキュラムをきちんとするのかということであるが、四六時中食育というわけにはいかない。ただし給食は毎日あるわけなので、それがどういう栄養素を持ってどうなっていく、それをどう理解するのかというのが中学校になると、理科の授業や家庭科の授業でしっかりやっていくというようなことは言えるかと思っている。そこが今まで中学校でやっていなかったということとの兼ね合いの中で整理ができていない部分でもあろうかと思っている。

【委員】 食育は確かに必要で、学校で「食べる」ということを学んでいくということはとても大事だと思うが、今佐世保市の実情では給食がないという状況、給食が欲しいというのはもっと切実な問題だと思う。いろいろな事情で、昼ご飯を食べずに我慢するということが本当にままある。食育以前にもっと切実にお腹がすくということ、お腹をいっぱいにするということでの給食ということをまずは考えてもらいたいと思っている。その上での食育ではないかというふうに考える。

【委員】 小学校に勤めている。先ほどの栄養職員に関してだが、つけ加えて言えば、佐世保市では、栄養職員ではあるが担任とTTを組んで栄養指導したり、好き嫌い、偏食をなくしたりという指導はやっている。

大事なことは資料3にもあがっているが、やはり佐世保市は食の先進地として頑張ってきたわけなので、食育ということを中心に進んでいただきたいと感じている。

そうすると、先ほどの資料にもあったように学校の食育が学校給食を中心に行われるというのは当然だろうが、学校には結構負担がある。偏食の指導、マナー、箸の持ち方、食器の並べ方。もう少し家庭でできないかなと。うちの子供は箸が持てないけれどもどう指導をしているのかというのが実際に学校にくる。

だから家庭における食の推進をどうしているのか、もう少し家庭の具体的な方策も欲しいなという考えがある。

5つ言いたいのだが、1つ目は食育を重視、中心に考えていきたいという考え。それから献立の中身だが、やはりカロリーというものを少し考えていかなければいけない。小学生の子供の中にもメタボリック傾向の子がいる。そして2つ目は、噛む力を育てるような、かたいものが必要ではないか。

3つ目は、給食費未納の件。そのための対策を講じてほしいというのがある。

4つ目が、小学校で今問題になっているのが給食をやることによって産業廃棄物としての廃油の処理の仕方。5番目は先ほど出ていた栄養教諭の増員が必要かなと思っている。

【会 長】 今の意見はずっと先の問題まで提起していただいた。

確かに子供たちの成長・発育のときの給食なので、1食当たりカロリーが600か700ぐらい。子供のことを考えて、学校給食で食育を求められるのはわかるが、家庭の役割は一体何なのだろうかということも大事ではないかという意見だと思う。

では委員が言われたように、家庭は一体何をやるんだろう、要するにこのまま給食さえ始まれば食育というものが佐世保市で成功するんだろうかという疑問を持った。

確かに給食をするということは、子供たちにとって食育の推進ではいいかもしれないが、それですべてではないのではないのかと。私は前から言っていることだが、家庭は一体何をやるのだろうかとかいうところについて何か御意見をお願いしたい。

【委 員】 私は食べることにに関して、命につながるということ子供に教えていく場の一つとして給食を取り上げられたらいいと思う。やはりお母さんが栄養のことを考えてお弁当をつくらしている家庭もあるので、選択できるようなものがある。食育を通しての食事は、自分の時代から孫の時代まで通じるというぐらいの大切なことだということ、学校給食の中で子供たちと勉強しながら、地域も社会もわかりあえていける場の一つとして中学校給食を皆さんでいように解決させていければと考えている。

【会 長】 学校給食は食育の一つで、やはり家庭というものが中心になって、その上で給食を実施するからより生きるということでしょうか。

【委 員】 何を食べるかということと同時にいかに食べるかということが同じぐらいの値打ちで問われなくてはならないと考える。

そして、食事というのは互いにケアすること、かかわること、つながることという重要な時間だと思うし、学校だけではなくて家庭でも同じ機能を持っているわけで、家庭で身につけた態度の延長として学校がある。さらには、学校の教師、生徒、家庭の保護者の方々が一つの同じ食育に対する理念の共有をきちんとつくり上げていくために、それぞれが互いに歩み寄ることが今から大事だと思う。

そういった理念をやはり高々と掲げて佐世保市民に提案するのがこの会議をおいてほかにはないのかなという気がしている。

【委 員】 いわゆる中学校における給食とは何ぞやということが今回の委員会に課せられた大きな課題だと思っている。6年間既に給食を続けてきた生徒に対してということなので、偏食

の矯正などの効果がないとはいわないが、中学校期になぜ給食を出さなくてはいけないのかということをもう少し掘り下げて考えたほうがいいのではないかという感じがした。

中学校期における食育というか給食といったものは、小学校は急成長をし始めるところで、栄養補給という面が結構強いと思うが、中学校になると教えれば自分で勉強するといった意識が出てくるので、こういった場で健全な食事とは一体何なのかとかといったことをしっかり教えながら食べるということがあっていいというのと、やはり地域の食材を食べるといのがこの中にもあがっているが、地域の食べ物、特色のある食べ物を提供して佐世保の食べ物はこんなものがある、こういう期限がある、こういう材料でつくっているんだよという機会にも使うことができるのではないかなという感じがした。

せつかく中学校で給食をやるということはどういった面で活用すればいいかということが今までの議論の中でまだ若干出尽くしてないような感じがしたので、もうちょっと検討したらどうかなと思った。

例えばコミュニケーションとしての給食というのがあるのもいいんだろうと思うし、多分いろいろな効果があって、食材の特殊なものを使ったりするのは、毎日ではできないと思う。あるときには週に1回は地元の食べ物を食べさせて、それに対するゆえん等々を教えるというようにすることは可能かもしれないし、時々コミュニケーションをしっかりとやったりとか、そういった中学校の時期に教えるというように機能をもう少し考えて展開していくといい効果を上げることが可能になるのではないかなと感じた。

【会長】 中学生ぐらいになると、特に女子の場合の健康問題、中学校で給食をしていても食べなくなってくるとか、極端なダイエットをするなど自分の体のイメージに対する認識がはっきりできる時期である。信じて話せば自分で理解ができる、ちゃんと習慣の確立ができる時期の中学生に給食をするわけなので、健康問題や自然のことなどいろいろなことを考えながら提供するというのも必要だと思う。

今まで食育、栄養というものは、何をどれぐらい食べるかということが中心だったと思う。

健康になるために、栄養問題も何をどれぐらい食べるということだけで今までずっと不足の時代から突っ走ってきたような気がする。その結果子供たちは食べ過ぎたりなどいろいろな健康問題も生じてきている。

なので、理想の給食のことを言わせていただければ、何をどれぐらい食べるというのは中学生だから当たり前のように理解ができると思う。それを理念というか、いつだれとどこでどういう気持ちで食べるのかということに重点に置いた給食があってもいいかもしれないと思う。

給食は、学校栄養教諭だとか栄養職員さんがおられるので、何をどれぐらい食べていくというものの管理はできると思う。そのプラスアルファを学校の現場で、先生たちにしていただきたい。それは教育という面から入る。家庭というのはやはり家庭なので違うと思う。そういうプラスアルファが何かないかなというふうに皆さんのお話を聞いて思った。

【委員】 余り固定的に学校の役割とか家庭の役割ということを考える必要はないのではないかなと思う。

やれるところがやればいいので、食の正しい知識を身につけ、食を選択する力をつけるという食育計画に書かれている基本的な目標を学校給食が一つの基本として有効だということが共通認識になれば、その先に行けるのではないかな。

中学校・小学校の生徒も、ちゃんと家でやれる親であれば給食がなくても栄養の面も問題な

い。だからコンビニ弁当とかそういったことばかりやっている家庭に、幾ら食育といっても、なかなか難しい。

そうすると、学校給食の役割の一つは、極端な話をいうと家でほとんどまともな朝御飯、晩御飯を食べていない子供が1日唯一昼御飯、給食でいいものが食べられたらそれだけでも有効性があるのではないかという極端な考えもある。

確かに家庭の役割というのは大きいと思うが、それを前提にできるところと、前提にできないところがあるので、家庭と学校の役割を固定的に考えないでやれるところがやればいいのかという気がしている。

【委員】 やはり精神的なものにも給食がアプローチできていけばと思っている。

具体的にいうと、十五夜に里芋を供える地域もある。その近い日に、給食で里芋の含め煮を実施した。そのことで、家に帰って十五夜で里芋も食べるんだねとか、学校でこういう給食が出たからおいしかったから家でもつくってみよう、おうちの人につくってもらおうとか、いろいろな精神面で給食がこの家庭とのつながりになっていければと思いながら皆さんの話を聞かせていただいた。

【会長】 議論も出つくしたようなので、まとめさせていただきたい。家庭にこんな役割があるのではないかとかいうこと、それから偏食矯正のためのものとか、いろいろなもので問題提起をさせていただいたが、中学生というともう大人としての食事の感性、食事の価値観だとか、食事が十分形成される時期である。それに対するアプローチのひとつに給食があるのではないかと思う。小学校6年間で終わった給食を、また3年プラスすることによって、食事の形を知らず知らずに練習する力があるのではないかと思う。

昔、食の伝承は親から子へということだった。食の伝承ではないけれども、給食では食べ方の伝承はできるのではないかなと思っている。中学校になって、もし佐世保市に完全給食が実現された場合に、例えば親の意識として食育が達成されたのだからもういいじゃない、1食でも助かるからそれで満足していいじゃないというものではないと思う。

この佐世保市のプランなどいろいろあるけれども、給食は食育の一環であって、学校のみで達成できるものでもないし、かといって家庭のみで食育ができるものでもない。お互いに役割を分担というか、とにかく子供たちを取り巻く環境すべてでやっていくのではないか。そしてその実現として中学校の給食は必要という立場で今後検討を進めていきたい。

学校が給食をしたからといって佐世保市の子供たちが急に食育が上がるわけでもないと思うし、始まったら先生たちの間、現場でもすごい混乱があることは予想される。それをやはり精神的なものなど、給食を通していろいろな付加価値がつくということではないかと思った。

◆次回以降の検討委員会の日程確認

第3回目を10月22日月曜日、第4回目を11月19日月曜日開催

◆施設見学の実施について確認

世知原給食センター、吉井北小学校

◆資料請求

- ・経年的に高校生の実態について、食育という観点、昼食の観点の資料があれば提出して欲しい。

- ・ 地場産品の使用状況 佐世保では何パーセントだが、長崎県で考えたら何パーセントになるなどもう少し幅を広げた形の資料
 - ・ 給食の実施方式等文言の説明、他市の状況などの資料
 - ・ 食育とはどういうことなのか、共通理解はできているのかわかる資料
- (次回以降提出することを確認)

【事務局】 大変長時間、熱心に論議いただき、ありがとうございました。

◆閉 会

— 了 —